

# 春キャベツの菌核病に対する効果的な防除時期の検討

～定植直後から年内までと3月以降が防除適期～

## 1. はじめに

キャベツ菌核病は、株が灰白色に腐敗する病害で、最終的には被害株の表面に黒色の菌核を形成することが特徴である(図1)。土中に残存した菌核が発芽すると子う盤を形成する(図2)。本病は、子う盤に形成される子う胞子によって感染し、結球期以降に発生する。本県では冬キャベツ、春キャベツともに発生がみられるが、特に春キャベツで問題となっている。

そこで、本病の効果的な防除時期を明らかにするため、ほ場における子う盤の形成時期および薬剤の時期別散布による防除効果について検討したので紹介する。

## 2. ほ場における子う盤の形成数の推移

菌核を埋設したポットをほ場に設置し、子う盤の形成数を定期的に調査したところ、2016年10月中旬から認められ、12月上旬に一旦終息し、3月中旬以降に再び認められた(図3)。

## 3. 菌核病に対する効果的な防除時期の検討

農業試験場内(紀の川市貴志川町)の露地ほ場に2016年11月16日にキャベツ(品種‘めぐみ’)を



図1 キャベツ菌核病の発病の様子

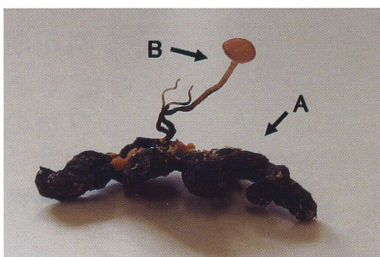


図2 菌核(A)と子う盤(B)

定植した。供試薬剤はロブラール水和剤1,000倍、散布時期は表1のとおりとし、2017年4月24日に発病調査を行った。その結果、11月、12月、3月のそれぞれ1回散布で防除効果が認められたが、2月の1回散布では防除効果が低かった(表1)。また、複数回散布を検討したところ、11月、12月の2回散布ではそれぞれの月の1回散布と比べて防除効果は向上しなかったが、11月、12月、3月の3回散布では防除効果が向上した(表1)。

## 4. おわりに

子う盤の形成時期と防除効果が認められる散布時期は一致していた。一般的にキャベツ菌核病の防除は結球開始期からの散布といわれるが、本県の春キャベツ栽培においては、結球開始期が厳寒期にあたり、感染する可能性は低いと考えられる。一方で、定植時期には感染源である子う胞子が飛散していると考えられ、効果的な防除時期は定植直後から12月までと、再び子う胞子が飛散し始める3月以降と考えられた。

(環境部 菱池政志)

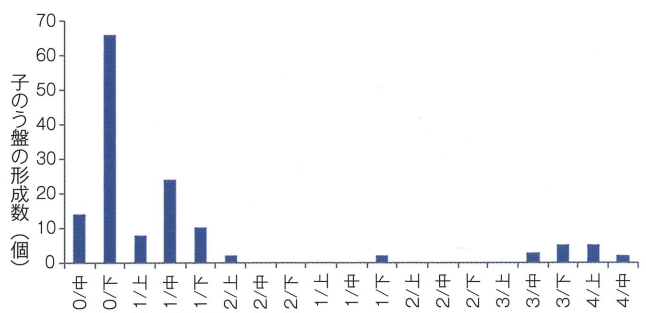


図3 子う盤の形成数の推移

表1 キャベツ菌核病に対する時期別散布の防除効果

区	散布日				調査株数	発病株数	発病株率%	防除価
	11/24	12/12	2/24	3/18				
11月散布	○				84	10	11.9	45.1
12月散布		○			83	8	9.6	55.6
2月散布			○		82	14	17.1	21.3
3月散布				○	84	9	10.7	50.6
11、12月散布	○	○			83	10	12.0	44.4
11、12、3月散布	○	○		○	83	5	6.0	72.2
無処理					83	18	21.7	

注) 防除価=(無処理区の発病株率-処理区の発病株率)×100/無処理区の発病株率